

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」  
～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

○主体的な課題解決をとおして、ねらいとする力を確実に身に付させる

＜本年度の学力向上策＞

- 1 基礎学力の確実な定着を図る授業の研究・実践
  - (1) 学校課題研修（国語力向上等）に基づく指導法の研究や共通実践
    - ・「書く」活動を重視し、論理的な思考力を育成する
  - (2) 特別支援教育の手法を生かした指導（教育のユニバーサルデザイン化）
    - ・教師の指示や板書の改善、教室掲示等の共通化 ・単元の見通しの明示化
  - (3) 全国学力・学習状況調査（6学年）、さいたま市学習状況調査（3～6学年）の調査結果の分析と共通理解・学習指導での活用
    - ・各教科における成果と課題の把握 ・学力向上カウンセリング学校訪問の活用
    - ・課題克服応援シートの活用
  - (4) 『よい授業』の4つの因子を反映させた授業実践とその実態調査
  - (5) 東小十の約束（学習篇）の徹底・定着
    - ・チャイムで授業開始 ・よい返事 ・学用品のルール
  - (6) 「ひがしっ子すくすくのびのび生活習慣向上キャンペーン」の実施による規則正しい生活習慣の確立、家庭学習の習慣化
  - (7) 大宮東中学校区共通「アクションプラン」の推進
  - (8) 読書活動の充実、読書好きな児童の育成
    - ・図書ボランティアによる読み聞かせ ・ブックウォーク
- 2 コミュニケーション力の育成
  - (1) 学校課題研修の推進
    - ・各教科・領域における「話し合い活動」の工夫と積極的な導入
  - (2) 外国語でコミュニケーションを図る能力の育成（「グローバル・スタディ」）

＜本年度の振り返り＞

「基礎学力の確実な定着を図る授業の研究・実践」として、3年間研究「書く」活動を重視した研究・実践を行った。今年度も外部から指導者を招いて校内授業研究会を行うとともに埼玉県国語教育研究会授業研究会を行い、大勢の参加者を迎えて授業を公開した。学習状況調査の結果からの実践への反映については、7月に学力向上カウンセリング訪問、10月（全国）と3月（市）に自校の分析と実態把握の研修を行い、授業改善につなげるよう活用できた。児童の学習に関する意欲も市の平均と比べて高い値となっている。6月・11月に行った『よい授業』の調査においても、4因子とも市の平均を上回り、授業の質の向上に取り組むことができていた。「コミュニケーション力の育成」として、さまざまな学習場で「学び合い」を推進し、児童も積極的に活動できるようになってきている。